

World AIDS Day Series 2008 全体企画書

「若者から、日本のHIV/エイズをめぐる現状を変えていこう！」

そんな想いの下、HIV/エイズ予防啓発活動に取り組む全国の若者が、
12月1日世界エイズデーに合わせて一体となって作り上げる、
若者主体のHIV/エイズ全国意識喚起キャンペーン。

それが、World AIDS Day Series(ワールド・エイズ・デー・シリーズ):wAdsです。

作成:wAds2008実行委員会



■ World AIDS Day Seires (wAds: ワッズ) とは

+++++

World AIDS Day Series(wAds:ワッズ)は、HIV/エイズ予防啓発活動に取り組む若者が、①資金不足②人材不足③ノウハウ不足等の問題から活動の効果を上げることができず、またそれにより若者の活動自体の社会的インパクトが出せていないという現状を「自分たちから変えていこう」という若者が集まり、2005年に始まりました。

+++++

若者自身による若者に向けた全国のHIV/エイズ予防啓発活動を1つにつなぎ、それぞれの活動をまとめて社会に発信し、またそうした若者が一体となって一つのイベントを開催する中で、若者による予防啓発活動の社会的認知度向上やスキル向上の機会創出の一端をwAdsは担ってきました。

+++++

近年では若者による若者に向けた予防啓発に焦点を当てるという点に軸足を置きつつも、キャンペーン対象を「若者関心層」から「若者無関心層」「若者を取り巻く社会」へと拡大させており、活動する若者同士のつながりを強め、その上で「無関心層」や行政・企業・NGO・メディア・政治家等の「若者を取り巻く社会」に対しても活動を広げていくこと、そしてそうした社会の様々な人たちと一緒に社会の在り方を変えていくことをより大きな目標に掲げ、活動しています。

+++++

wAdsのこれまでの歩み(テーマ)

2005年

「あなたとしたい

—Think about AIDS—

「知る」「参加する」「行動する」を切り口に1人1人がエイズを自分の問題として引き寄せて考え、行動してもらおうきっかけづくりをしました。

2006年

「VOICE !

—2万人の声を集めちゃえ—

一人の声は小さいけれど、みんなの声が集まれば大きくなる。自分の思いを声にし、それを社会に届けるため、若者の声を集めました。

2007年

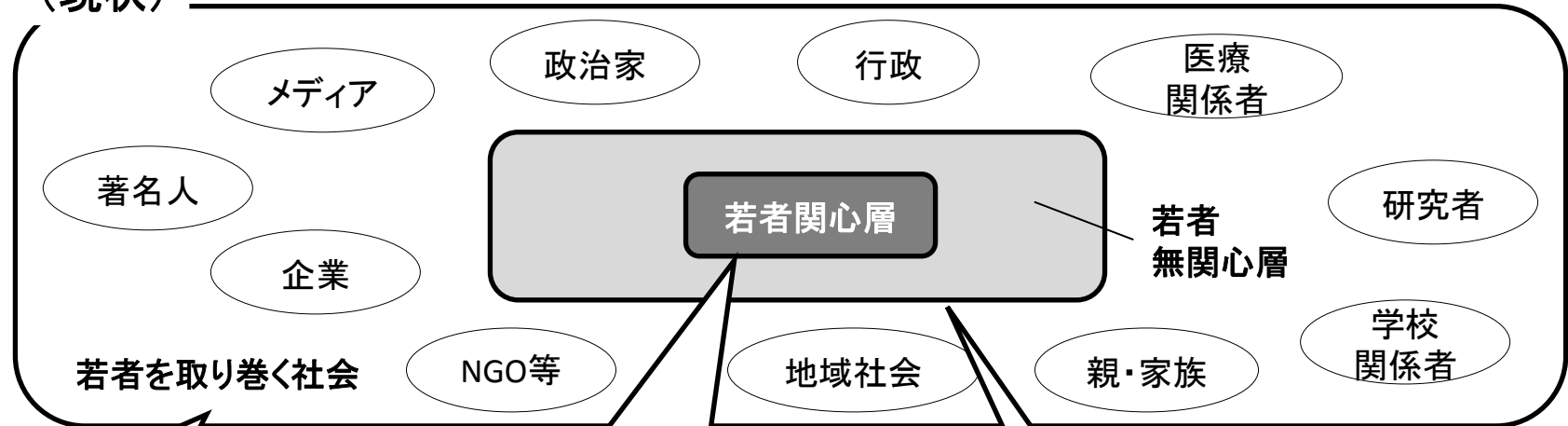
「CHOICE !

—“選択する”ということ—

自分の意志に基づいた行動を若者自らが選ぶことができるよう、公開しない選択のための情報提供と“選択すること”自体を考えるきっかけづくりをしました。



(現状)



若者との連携不足: 若者に向けた啓発活動に取り組む若者の存在自体を知らなかったり、理解がすすんでいなかったりするため、若者と上手く連携できていない。

若者の活動の支援体制不足: 資金面やノウハウ面で若者の活動を支えてくれるような仕組み・土壌がない。
HIV/エイズに対する場当たりの取り組み:

活動上の困難: 発信力が弱さや、資金・人材・ノウハウ不足等の問題で、効果的な活動ができていない。

情報交換や協働の不足: 若者同士のつながりもまだ薄いため、動きがバラバラ。

- ① 若者関心層
 - ② 若者無関心層
 - ③ 若者を取り巻く社会
- の3つを対象としたアプローチが必要**

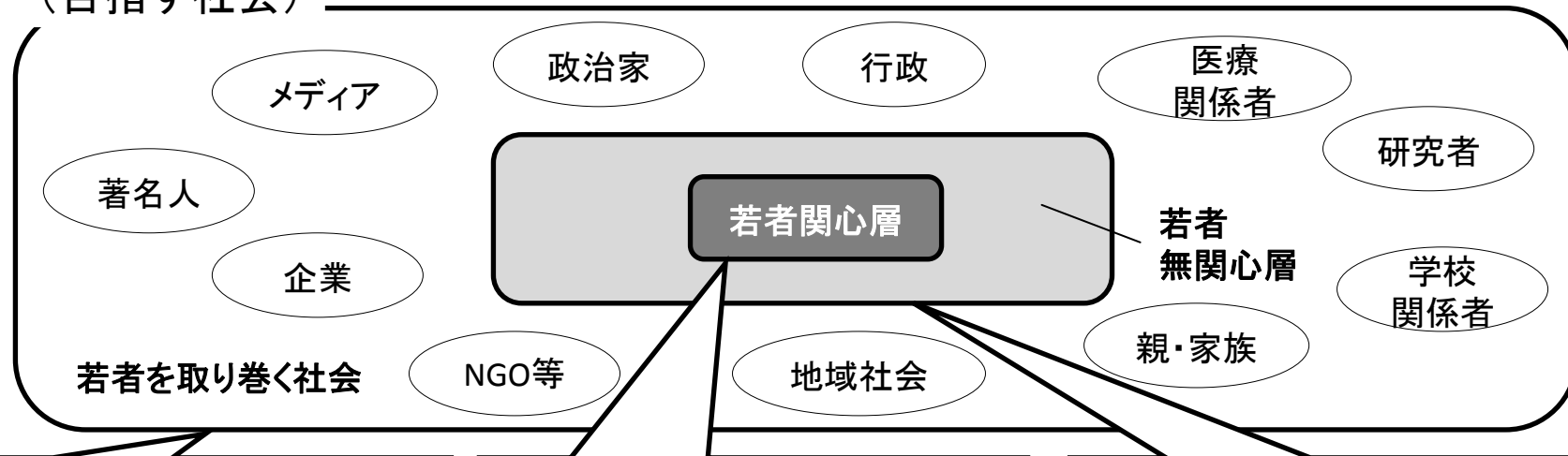
知識不足: HIVやエイズに関する知識が不十分。

理解・認識不足: 知識はあっても、エイズを自分の問題として捉えられておらず、予防行動等に結びついていない。HIV感染者やエイズ患者への差別・偏見も残る。

機会不足: 日本のHIVをめぐる現状等に対する潜在的な関心層だが、活動を始めのきっかけがなく、啓発活動などは行っていない。



(目指す社会)



若者との連携: HIV/エイズ関連活動を行う社会の中の他のセクターと活動する若者が連携し、相乗作用を生みだす。

若者の活動の支援: 資金面やノウハウ面で若者の活動を支えるような基盤づくりが進む。

社会を変えていこうとする若者が無視されない社会へ。

活動上の困難克服: 社会との結びつきを強めることで、資金・ノウハウ・発信力不足等の問題の解決していくことができる。

情報交換や協働の活発化: 若者同士のつながりを強め、共に困難を乗り越える。現状を変えるべく若者が一緒になって声を上げ、立ち上げられる社会へ。

知識普及: HIVやエイズに関する基礎知識が広く浸透する。

理解促進: HIVやエイズの問題を自分の問題として捉え、予防行動を取れる若者が増え、HIV感染者やエイズ患者に対する理解が進む。

活動の機会: 日本のHIVをめぐる現状を受けて、行動を起こしたいという若者が活動のきっかけを得られる。

活動する若者同士がつながり、社会の中の様々な人たちと一緒に、
①新規HIV感染者の増加防止 ②HIV感染者・エイズ患者との共生社会を実現していく



若者
関心層

- 活動上の困難の存在
(資金・人材・ノウハウ・発信力不足)
- 協働・情報交換の機会の不足
- 活動上必要なHIV/エイズやその取り組みの現状に対する理解の不足

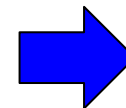
若者
無関心層

- HIV/エイズに関する基本的な知識の不足
- HIVやエイズに対する理解・認識の不足
- HIVやエイズの問題に取り組み、考える機会の不足

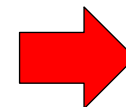
若者を取り
巻く
社会

- 若者との連携不足
- 若者の活動支援体制不足
- 日本のHIV/エイズをめぐる様々な問題に対する場当たりの取り組み

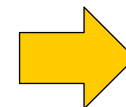
—wAdsの取り組み—



ネットワーキング・
エンパワーメント事業
(つながる・つよめる)



アウトリーチ事業
(うごく・ひろげる)



アドボカシー事業
(声をあげる・かえていく)



- [名称] World AIDS Day Series 2008(ワールド・エイズ・デーシリーズ:ワッズ2008)
[期間] 10月25日(土)～12月23日(火)の60日間
[場所] 東京都を中心とした全国25都道府県
[主催] wAds2008実行委員会
-

- [参加団体] 全国の約20のHIV/エイズ関連若者団体
[賛同団体] HIV/エイズに限らず、若者から現状を変えることに取り組んでいる
全国の約60の若者団体
[特別協力団体] YDP Japan Network、薬学生の集い
-

- [後援] 厚生労働省、東京都、渋谷区、東京都看護協会、日本家族計画協会、
アフリカ日本協議会(一部申請中)
[協賛] カルチャー・オブ・エイジア、株式会社フレンチ・コネクション・ジャパン、
オカモト株式会社、コンドマニア、株式会社リライオンアコー、不二ラテックス
[特別支援企業] 印刷と広告のあどばら
[協力] 財団法人エイズ予防財団、オラクル有志の会ボランティア基金



①ネットワーク・エンパワーメント事業:

- ・HIV/エイズ予防啓発に取り組む若者が集う会(11月中旬)
 - ・各地での各団体のHIV/エイズ活動におけるグッズや資材、テーマの共有
 - ・関連団体が一体となって取り組む「HIV抗体検査実施カード」「CHOICE! アプローチ」の普及活動
 - ・wAdsウェブサイト、ブログを使った各地のイベント情報発信、成果報告
-

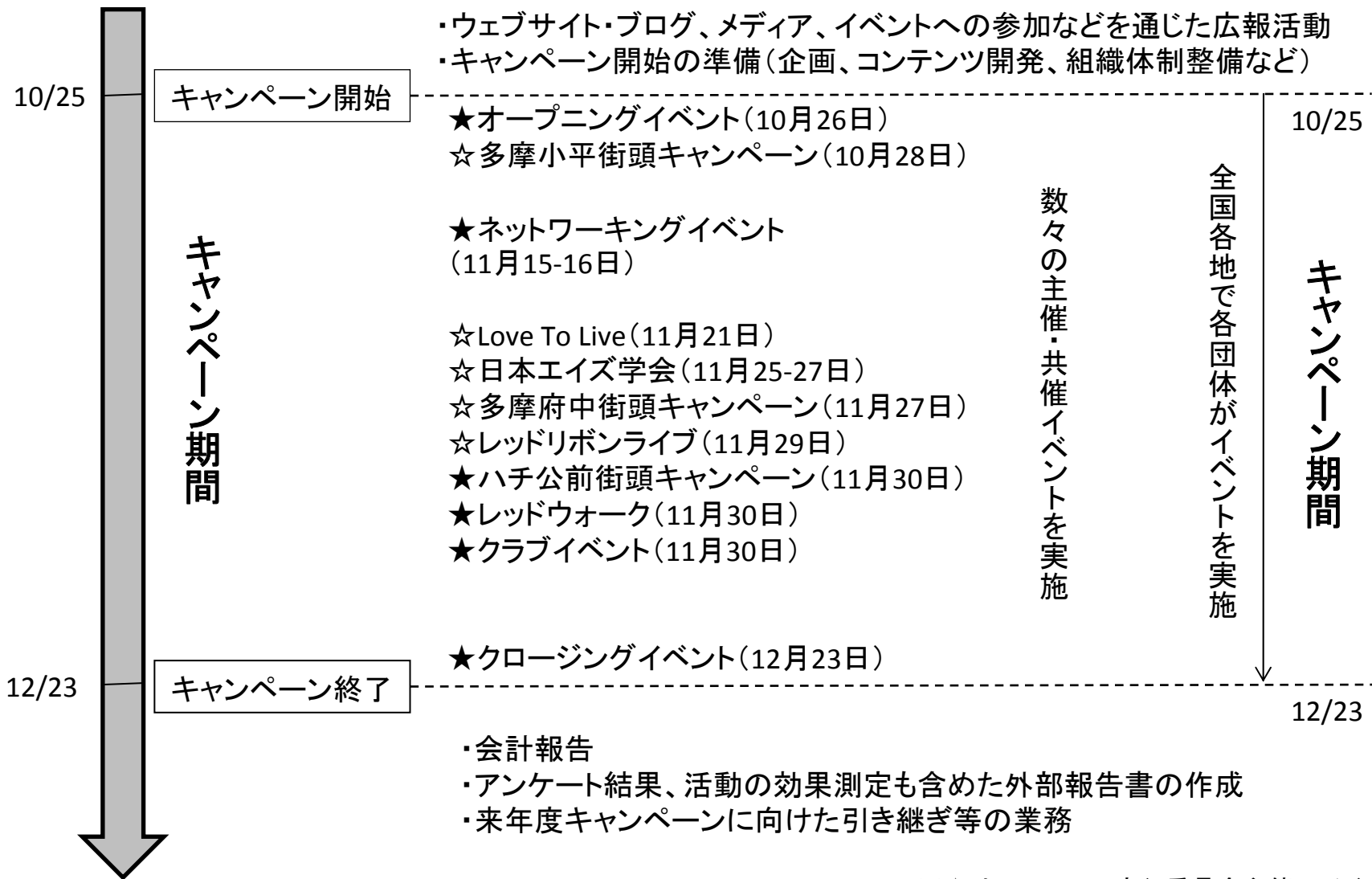
②アウトリーチ事業:

- ・オープニングイベント(10月26日)
 - ・ハチ公前街頭キャンペーン、レッドウォーク、クラブイベント(11月30日)
 - ・地域の保健所と連携した全国各地での街頭キャンペーン
 - ・Love To Live、RED RIBBON LIVE等のイベントでの他セクターとのコラボレーション
-

③アドボカシー事業:

- ・アンケート調査の実施
- ・地域連携推進協議会、学会、国際会議等での発表
- ・厚生労働省への意見提出
- ・政治家との意見交換
- ・メディアを通じた問題提起





※★はwAds2008実行委員会主催のイベント。



◆地域・規模

- ・参加都道府県数:25都道府県(2007年:11/2006年:/2005年:)
- ・参加団体数[主催団体]:20団体(2007年:16/2006年:17/2005年:5)
[賛同団体]:60団体
- ・実施イベント数:30イベント(2007年度:32/2006年度:17/2005年度:5)

◆対象別

- ・若者関心層:500人
- ・若者無関心層:2万人
- ・若者を取り巻く社会:5万人

◆アプローチ別

<対関心層>

- ・イベント参加人数:150
- ・サポーターML登録数:300
- ・HIV抗体検査実施カード
発行数:200
- ・問い合わせ数:10
- ・応援メッセージ数:100

<対無関心層>

- ・イベント参加人数:3,000
- ・啓発資材配布数:10,000
- ・アンケート回収数:3,000
- ・CHOICE!参加数:3,000
- ・ Condom配布数:10,000
- ・ウェブサイトアクセス数:30,000
- ・ブログアクセス数:15,000
- ・応援メッセージ数:100

<対若者を取り巻く社会>

- ・協賛企業数:10
- ・掲載メディア数
[全国紙]:2
[地方紙]:10
[テレビ]:1
[ウェブニュース]:5
- ・連携イベント実施数:5
- ・応援メッセージ数:100



wAds2008実行委員会

共同代表: 今野大一 (早稲田大学5年、ふれいす東京)

daichi.konno@gmail.com//090-8279-3482

水野聡子 (東京大学3年、アデオジャパン)

mizuno.satoko@gmail.com//090-5181-3348

広報担当: 野坂彩佳 a.n-n.a@hotmail.co.jp

渉外担当: 飯田彩恵子 i06016si@sfc.keio.ac.jp

会計担当: 重田洋佑 y.shigeta@ydpjapan.net

〒151-0073

東京都渋谷区笹塚1-38-9新緑荘103号 (小栗充博方)

□メール: info@wadsjapan.net

□HP: <http://www.wadsjapan.net/>

□ブログ: <http://ameblo.jp/wads2008/>

